

## 2021年度 研究助成課題が決定しました

2021年度の研究助成課題は、個別研究助成48件、育成研究助成29件の応募があり、専門委員会で審査および理事会で審議の結果、次の通り決定しましたのでお知らせします（応募順、申請時の所属）。

### 個別研究助成（1年間）

氏名	所属	課題	助成金額 (万円)
西野 康人	東京農業大学生物産業学部 教授	北海道羅臼における天然ホタテガイの移動要因と 摂餌生態の解明	70
武田 真城 共同研究者：池田 実	東北大学大学院農学研究科 博士課程前期1年	奄美大島に生息するスジエビ個体群の実態解明： 分布・形態・DNA・生活史	70
藤井 夏鈴	広島大学大学院統合生命科学研究科 博士課程後期1年	ミズクラゲのストロビレーションを誘導する温度 条件と生育環境水温の関連の解明	70
宮澤 秀幸 共同研究者：中野 裕昭	大学共同利用機関法人情報・システム 研究機構国立遺伝学研究所先端ゲ ノミクス推進センター 特任研究員	生態とゲノムから挑む平板動物の種多様性の解明	70
坂上 登亮 共同研究者：安藤 元紀, 濱田 麻友子, 畑生 俊光	岡山大学大学院教育学研究科 博士課程前期2年	無腸動物の刺激受容応答機構の解明とその利用	70
北之坊 誠也 共同研究者：守田 昌哉	琉球大学 (独)日本学術振興会特別研究員PD	ミドリイシ属サンゴにおける野外での受精成功要 因と次世代の遺伝的多様性の解明	70
池永 潤平	東京大学大学院理学系研究科 附属臨海実験所 博士2年	2種のヒモムシ <i>K. alborostrata</i> と <i>K. fulva</i> の共存 を可能にしているであろう摂食様式の差異の解明	66
北詰 美加 共同研究者：田中 広樹, 柏尾 翔, 増田 泰久	公益社団法人大阪自然環境保全協会 ボランティア	市民科学による大阪湾のウミウシ類調査記録	70
大村 文乃	日本大学芸術学部 研究員	四足動物のように歩くイカ「ハナイカ」の運動機 構の解明：形態と動画解析からのアプローチ	70

### 育成研究助成（2年間、金額は1年目交付額）

氏名	所属	課題	助成金額 (万円)
澤田 直人	京都大学大学院農学研究科 修士2年	琵琶湖産カワナ属の核型の変異を介した種分化 機構の解明	100
紫藤 拓巳	慶應義塾大学大学院理工学研究科 修士1年	ホヤ卵透明性の進化と生態学的・遺伝的要因の 解明	100
鈴木 瞭牙	東京海洋大学海洋資源環境学部 学部4年	カミクラゲの化学防御機構の解明	99.6
乾 直人	東京大学大学院理学系研究科 修士1年	水生と陸生の境界から探る等脚類の陸上進出： 潮間帯に生息するヒゲナガワラジムシ属における 呼吸器官の進化発生学的研究	100

### 編集後記

111号の表紙は夏色の「アカフチミドリガイ」です。光合成ウミウシであるコノハミドリガイと同じ囊舌目チドリミドリガイ科の仲間です。主に熱帯域に分布する種で、奄美では2003年～2005年に見られたそうです。橙色と青色のコントラストがきれいで、いかにも熱帯の海に似そうなウミウシです。

今号の研究紹介は、研究の楽しさを垣間見ることができる内容でした。特に、光合成ウミウシの自切と再生能力については、

先頃、メディアでも取り上げられており、注目されていたようです。生物にはまだ知られざる能力があり、研究によって解明される経過をここでは知ることができます。小さな砂の中に暮らす未知の動物たちや、オニヒトデ体表の共生細菌などのように、海の生物の能力や機能、生態は未解明なものも多く、さらなる研究が望まれます。